ありし日の進野久五郎さんの思い出

冬山雷鳥生態研究会々長　植　木　忠　夫

「富山の植物」で有名な進野さんと私は，約１年ほどの年令違いはあるが，どちらも１９世紀生れ，いわば前世紀生れの生きた化石ともいえよう。

故菊池勤左エ門先輩が富山県生物学会初代会長，進野さんは二代会長でどちらも広島高等師範出身，お二人とも故人となられ，そして私が三代目をつとめ，第四代目が小林貞作教授で現在にいたっている。どちらかといえば菊池さんは動物畑・進野さん植物畑・私は動物畑・小林さん植物畑出身ということになっている。

富山師範が公立から官立に昇格したときは，植物学の進野さんは，富山高校教授であった私に動物学を兼任の形でしばらくお手伝いしたこともあった。

それから暫くして進野さんは，富山県立高校長となり，富山中部高校という名門校々長まで就任され，活躍時代がなつかしい。

私は富山歩こう会長を十年勤め多ぜい歩いたが，進野さんは独りで山野をおどろくほどよく歩かれて植物採集に精魂を傾けられ，業績である一万点の植物標本は，死後ご遺族から富山市科学文化センターに寄附されたことが顕彰された。

晩年のころ度々病床の人となられ，私が市民病院に半年間心筋こうそくで入院中も同じ病棟に進野さんも入院され楽しく訪問しあったこともあった。また進野さんが前立腺手術でご入院中，お見舞したら「なにもお見せするものはないが，これを見て下さい」といって大切な器官を見せてくれた微笑ましい思い出がある。

私は進野さん宅を何度かお訪ねしたことがあったが，私の宅には一ぺんも来てくれなかった事が残念に思われてならない。私は血液型Ｂであるが進野さんはＯ型かＡＢ型か聞くのを忘れたまま別世界に逝かれてしまった。ああ淋しいことだ。（富山大学名誉教授・立山連峰の自然を守る会，富山県野鳥保護の会，富山県動物生態研究会等々の名誉会長）